

問題はリーダーたちのビジョンの欠如

日本では政治も経済も行政もなんとなく元気がありません。世界をめぐる状況もはつきりしませんね。21世紀を迎え、2つの世界大戦と東西冷戦が持続していた20世紀とはすっかり様相が違ってきているのでしよう。21世紀の課題は「人口の増加（今の60億人から2050年には90億人）」、「環境問題」、そして「南北問題」でしょう。

日本でのさしあたっての課題は、世界を囲むパラダイムが大きく変化しているのに、従来の「成功」で世界の状況が見えない日本の「リーダー」たちの能力とビジョンの欠如だと思います。

世界には、たくさん山の山があります。日本では3800メートル程度で富士山がいちばん高い山ですね。

日本の大学の教授を山にたとえてみましょう。みんな一応は2500メートル程度の高さはあると思っています。本当でしょうか？医学生にとっても「教授」は、とりあえず3000メートル程度の高さはあるように見えるでしょう。でも本当は、1500メートル程度かもしれません。だったらどうでしょう。それをめざしていると卒業までに学生は、せいぜい1000メートル

程度のレベルにしかありません。もちろん教授が3000メートル級であれば、学生も2000メートルにはなるかもしれませんがね。

情報技術の発達、情報の公開によって世界が多くの人たちに見えるようになってきました。そして、世界には5000メートルや、ときには8000メートルの山のあることが、日本でも広い世間に見えるようになってきています。私たち「身内」は知っていたでしょうが、世間の人たちや学生さんは知らなかった事実。そして、過去の「既得権」を持った「日本の権威」はこのことを知っていても認めながらも、隠していたのです。

ただ、山には2000メートル級でも谷川岳のように険しい山もあれば、緩やかな優しい山もあります。当然ですが、山は高さだけで価値があるわけではありません。それぞれがそれぞれの魅力を持ち、存在している良いのです。

これが医師の役割にもいえるでしょう。病院や開業して臨床に人生を捧げる人、大学教授として教育にあたる人、研究にまい

進する人、みんなが、「医師」としては同等なのです。地位によって「偉い、偉くない」なんて馬鹿けていますね。それぞれが社会において貴い役割がある。みんな必要な人たちなのです。どんな医師になりたいかは一人ひとりの選択。だからこそ、学生のときに、若いときに、広い世界へ出て、世界のいろいろな山を見て、接して、登ってみて、自分のめざす進路を考える。こんなことに教育の大事さがあると思います。将来は若い人たちにこそあるのです。だから、多くの可能性を見せ、選択肢を示してあげることが、教育なのではないでしょうか。

学生のことを、嘆く教師がいます。「きれ」る子どもを、嘆く大人がいます。しかし「生徒は先生を映す鏡」であり、「子どもは社会を映す鏡」だということを忘れてはいけません。このような視点で見ると、日本のどこが問題であるかが自ずとわかってくるのではないのでしょうか。

私の Home Page : www.kiyoshikurokawa.com はこのような視点での論旨を展開しています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。